

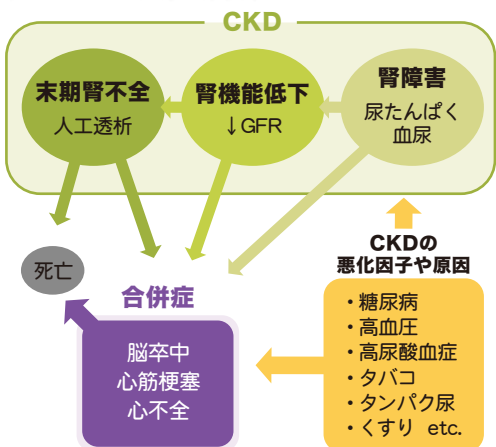


心
最高の
設備 技術

最前線医療を行う

慢性腎臓病【CKD】外来（腎臓内科）

専門医とチームでサポート！



慢性腎臓病（CKD）とは腎臓の働きが慢性的に低下する病気。だが、かなり進行しない限り自覚症状が現れず、気づいたときには悪化していることが多い。腎機能がひどく低下すると回復は期待できず、脳卒中や心臓病などの合併症を引き起こし、透析や腎臓移植が必要となる。

●慢性腎臓病（CKD）とは

CKD Chronic Kidney Disease

- 腎臓の働き
- ①尿を作り血液を浄化
 - …老廃物排泄・水分や塩分量
 - （電解質：Na・K・Cl）の調節
 - ②ホルモンを作る
 - …血圧の調節ホルモン、骨の健康維持のホルモン、赤血球を作るホルモン

日本人の国民病の一つ、慢性腎臓病（CKD）は、放っておくと腎機能が低下して透析が必要となり、脳卒中や心臓病などの合併症を伴い、命に関わることもある。『早期発見・早期治療で健康寿命を延ばそう』と、専門医を中心にチームが一丸となって患者のトータルケアに当たっている西の京病院「慢性腎臓病外来」の酒井圭慧子医師に話を伺った。

●自覚症状

尿の異常（頻尿）、疲労・倦怠感、食欲不振・吐き気、貧血、むくみ・かゆみ、息苦しさなど

腎臓は“沈黙の臓器”と呼ばれ、自覚症状を認める頃には、かなり進行している可能性大！

●CKDの診断

定期健診でのチェックが大切！
尿検査による蛋白尿と、血液検査によるクレアチニン値を基に評価

●ストップ！

●慢性腎臓病 — 治療の3本柱 —

重症化すると怖い慢性腎臓病だが、適切な治療で進行を遅らせることができる。まずは生活習慣の改善（適度な運動や禁煙）、食事療法（減塩など）、薬物療法の3本柱。医師のサポートの下、患者とその家族がホームドクターとなり、三位一体での治療が肝心だ。

【CKD治療の3本柱】

食事療法

減塩！
人の味覚で辛味は加齢とともに鈍感になるので、塩分過多になりやすい。それを意識した食生活を。

生活習慣の改善

薬物療法

くすり



酒井 圭慧子 医師
SAKAI TAEKO

慢性腎臓病は、コップに水を注いでいくような病気。あふれるまでわからない！だから、血液や尿の定期健診で早期発見・早期治療が大切です。一度専門医へご相談を。

- ・日本内科学会認定内科医
- ・日本腎臓学会認定専門医
- ・日本透析医学会専門医

【慢性腎臓病（CKD）外来】

日時：毎週月曜 13:30～ ※電話事前申し込み
対象者：腎臓病が気になる人及び
そのご家族、腎臓病と診断された人
患者様相談窓口：TEL 0742-35-2055
(月～金14:00～17:00、土9:00～12:00)

●透析生活も

●チーム連携でサポート

4施設162床、約400人の患者は県下最大級という実績を持つ同院。高度な知識と技術を持つスタッフがチームで患者のライフスタイルに合った透析生活をサポートする。

同院では、1～2週間の教育入院で、外来だけではなくなかなか難しい1日の塩分摂取量・24時間の血圧測定、腎臓の働きや合併症の評価、機能低下の原因を調べ、それに沿ったアプローチ（食事や生活の指導）を行う。

生活習慣の改善や食事療法はリハビリテーションや栄養サポートチームと協力し、CKDの原因や合併症管理は、糖尿病・循環器などの専門医師と連携して、総合病院ならではのトータルケアに注力する。

初期治療をしっかりしていれば、たとえ透析導入になっても元気の日常生活を送りやすいです

